

「学びの手の極意を探る」
まとめ表

名前： 鏡 久賀

1. 本日の講義のご感想をご記入下さい。

今回は、田口先生に東洋思想の個人講義を頂くという誠に貴重な機会であった。TAO 講座で学んだ内容の概要を改めて拝聴すると、東洋思想という壮大な思想哲学の形成過程を地政学的側面と時間的側面の二つの観点からイメージ豊かに辿ることができた。以下に列挙する東洋思想形成の経過は、まさに僥倖、天の采配とも言えるのではないか。

- ユーラシア大陸東端に、森林山岳海洋島国国家 日本が位置していたこと。
 - ユーラシア大陸のインド、中国から朝鮮半島を経由して、老荘思想、儒教、仏教、禪が伝来し、日本に蓄積されていったこと。(経過地とならなかったこと)
 - 古来、日本に存在していた神信仰が圧倒的受容性をもって大陸伝来の思想を(排斥することなく)受けとめたこと。
 - 特に鎌倉時代には、大乘仏教を究め専修念仏を説いた親鸞、宋(中国)の禅仏教を正式に修めた日本人 道元の功績により、東洋思想の精神性が(最早、発祥の地にはない程に)高められたこと。
 - これらの動きが、紀元前2世紀から13世紀までの1,500年間に起こったこと。
 - 東洋思想は、信仰よりもむしろ国民教育の要として、飛鳥時代 聖徳太子に、江戸時代 徳川家康に活用されたこと。
 - 東洋思想は、室町時代から江戸時代にかけて、身近な生活にも侘び寂び文化(世阿弥の能、千利休の茶道：様式美、芭蕉の旅：ライフスタイル)として浸透・発展していったこと。
- これ程の豊かな知的資産をもった私達日本人は、まず、その「宝」を自覚し、更に現在世界各地で起こっている諸課題に対して、沈静化、衝突回避の方向へ促す役割を担っているのだと思う。

2. よく解らなかったこと、ご質問等をご記入下さい。

昨年の TAO CLUB 講座卒業実習では「東洋思想で生きる」と題し「身体思考が東洋思想を支える。読んだだけではわかっていない。語って、共感を得なければ伝わらない。伝えなければ私の存在意義はない。」と述べたが、どのように体現してゆくかは、まだまだ模索中である。

まず、日々の暮らしの中で、四季折々を丁寧に生きることによって、子、孫に伝えることを基本に据える。加えて、田口先生がニューズレターで発信して下さる「調和」「中庸」「徳(いきおい)」などの本来の意味を学び、周囲の人々との対話に披露する機会を探る。

といったところから始めたいと考えております。これからもどうぞよろしくご指導の程お願い申し上げます。

以上